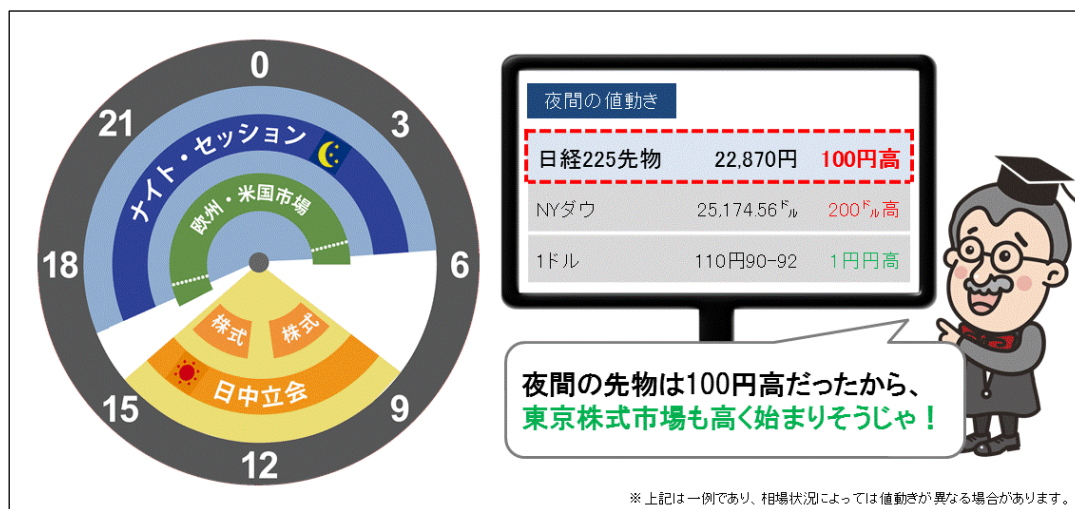


1. 夜間の値動きを先物で確認

大阪取引所では、日中取引のほか、夜間取引、ナイト・セッション（16:30～翌 5:30）を行っています。ナイト・セッションでは、為替市場や欧米株式市場の動向を踏まえ、日経 225 や TOPIX 先物などが刻々と取引されています。

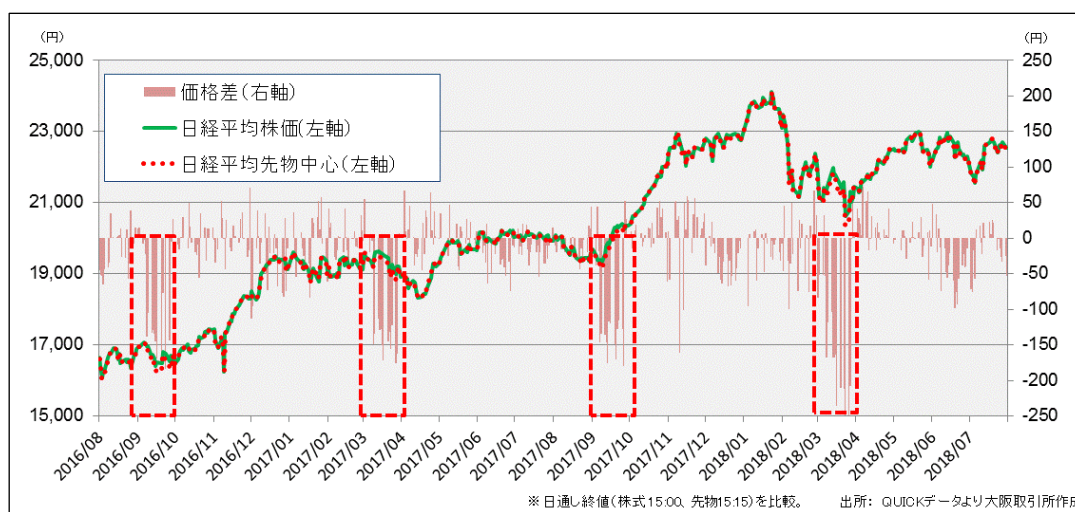
ナイト・セッションでは、夜間も日本株式のリスクヘッジが可能になることはもちろんのこと、直接投資しない方にとっても、夜間の値動きは翌朝の日本株市場にとって重要な指標となります。



2. 株価指数と先物価格の関係

値動きを見る場合は、単に先物の「終値」や「価格」だけを見ればよいのでしょうか？

下の図では、日経平均株価と先物中心限月の日中終値を比較しています。特に3月と9月に、価格差が生まれやすいようです。



なぜ、こうした価格差が生まれるのでしょうか？

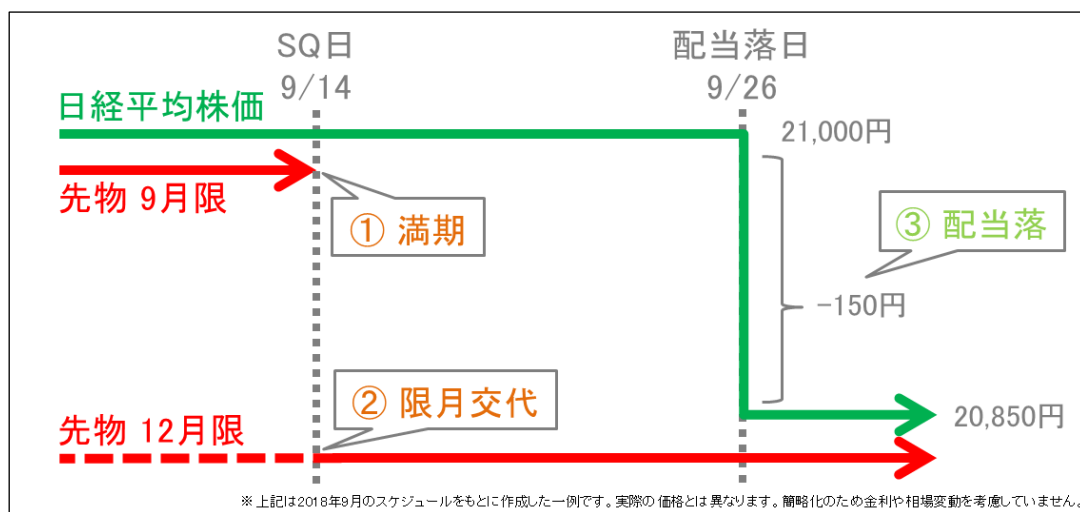
理由は、「配当」に関する株価指数（現物）と先物の仕組みの違いにあります。

現物： 権利確定日の2営業日前に配当落が発生します（配当落までは、配当分を見込んで取引されています）。日経平均株価では、3、9月の末に採用銘柄の権利確定日が集中していることもあり、3、9月末の2営業日前に、日経平均株価が配当相当額分下落することとなります。

先物： 先物の理論価格では、満期までの配当相当額分をあらかじめ引いて計算します。このため、満期が遠い銘柄があらかじめ安く取引される傾向があります（先物取引では、満期の異なる銘柄が常時複数取引されています）。

日経225先物の場合、四半期（3、6、9、12月）の第2金曜日に満期が到来し、直近限月（≒中心限月）が交代しますが、交代した限月はすでに安く取引されていますので、この時点で日経平均株価との価格差が大きくなります。その後、配当落日が到来すると、株式の配当落が日経平均株価に反映され、先物の価格に近づくこととなります。

詳しくは、以下のイメージ図をご参照ください。



3. 先物の“前日比”に注目

上記により、3、9月の先物の満期日（第2金曜日）から株価指数の配当落日までの2～3週間は、特に価格差が大きくなる傾向にあります。

この価格差は、株価指数と先物の仕組みの違いから生まれるものですから、特にこの時期、単に日経平均株価と先物の「終値」「価格」を見比べてしまうと、夜間の値動きはわかりません。

夜間の値動きを確認したい場合は、同じ限月の先物間で価格を比較する、つまり先物の「前日比」を確認することで、仕組みからくる価格差を気にすることなく、夜間の値動きを捉えることができます。

是非ご活用ください。



仕組みは難しいけれど、要するに
“前日比”に注目すればいいのね！

（第19話、おわり）